

文字のこる是等も右の類ひ歟

〔寒川入道筆記〕謎語之事

一 春夏秋冬を昆布に裹だ何ぞ、 小式部

一 ふすべぬかわ衣打させた何ぞ、 北白川

一 焼亡打れた何ぞ、 人丸

一 股藏のたぬき何ぞ、 枕

一 むらさきの袈裟すみ染の袈裟何ぞ、 さ、

一 山がらが山にはなれて去年ことし何ぞ、 唐錦

一 山々に風が入た何ぞ、 嵐山

一 わたましのあした何ぞ、 すみ染の袈裟

一 くさ、にさつた何ぞ、 かいでの木

一 ほのく、とあかしのうらの朝ぎりにままかくれ行舟おしぞおもふこのうたは字あまに

て候何ぞ、 筆

一 古今の序やぶれて歌人の中終る何ぞ、 きんかん

一 酒の入物十何ぞ、 すいむし

一 あかぬわかれ何ぞ、 はなれうし

一 田何ぞ、 もみち

一 花何ぞ、 なるみ崎

一 はらから何ぞ、 鏡臺

一 太山路や深山がくれの薄もみち紅葉は散てあとかたもなし何ぞ、 茶磨○下